

NPO緑の会

特定非営利
活動法人
NPO緑の会
取手市小文間
3838-1
TEL 0297-
72-8791

◆ウエルネスウィーク2007開催される 「EMサミット in 沖縄」などに参加

ウエルネスウィーク2007が10月29日(月)～11月4日(日)の間、沖縄で開催され、多彩な行事が行われました。

NPO緑の会は、とね緑の会、阿見緑の会、いなしき緑の会、ひたち緑の会の皆さんと総勢10名で、10月29日～11月1日の間、「タイランドフェスタ」と「EMサミット in 沖縄」に参加の他、比嘉教授が荒地を開墾して作っ



EMサミットのオープンセレモニー

たバナナ園の現地視察、またEM活用事例で世界的にも有名な「うるま市立中央図書館(伯具志川市立図書館)」を当時の知念信正図書館長(現在、NPOうるま環境ネットワーク理事長)のご案内で実際に見学することができました。

◆タイランドフェスタ

10月30日・沖縄コンベンションセンター会議棟

農業国で知られるタイでは、広くEMが活用され、タイ陸軍による村落復興事業にも積極的にEM技術が活用されています。また、タイ国王が提唱される「王土楽土」建設運動や「足るを知る経済」を推進するうえで、EMが基盤となる技術普及が行われています。

フェスタでは、タイ国内でのEM活動の広がりや最新事例の報告が次のようなタイトルでありました。

- 「足るを知る経済推進事業でのEM活用効果」

キングプロジェクト チュラデート・チッタウイン大佐



タイランドフェスタの様様

- 「学校教育での取り組みEMによる稲作」コーウィット・ドークマイイ先生

- 「EMによる汚水処理技術について」タイ住宅公社 ウォラヌット副総裁

- 「津波被災地でのEM活用衛生管理」国防省陸軍監査官ラツタナチット・カセーム大佐

その他、「農業：果樹・建築・医療分野での取り組み」など

◆比嘉教授バナナ園視察

10月31日午前、比嘉教授の農場を視察しました。

3年ほど前からご自宅近くの雑草がジャングルのように生い茂り放置されていた土地を誰の手も借りず、一人で整備し、今では、年に1トンを超える量のバナナが

収穫でき、周辺家庭の野菜までをまかなえるような立派な農場に仕立て上げたそうです。



たわわに実ったバナナ

普通なら、雑草を刈って、土を耕して…となるところを、EMと米ぬかを使い、生えている雑草をそのまま堆肥化させ、耕すことなく植物を植えていくという方法をとっているそうです。



バナナ園横の野菜

また、収穫などで空いたスペースには直ちに種を蒔くことで、雑草の生えるスペー

スを作らせないそうで、こうした連続した栽培を続けていると、普通であれば病気や害虫にやられてしまいますが、EM活性液とEMスーパー発酵C、そしてEM7の希釈液をこまめに散布することで病気や害虫を寄せ付けなければかりか、収量も増えいいこと尽くめとのことでした。

◆EMサミット in 沖縄

10月31日・沖縄県うるま市「うるま市民芸術劇場」

七つのEM活用事例を中心に発表が行われ、事例発表の後にうるま市長・知念恒男氏と名桜大学教授・比嘉照夫氏の対談も行われました。

知念市長は、EM活用を選挙公約にして当選し、行政にEMを導入した全国的にもめずらしい先駆者です。

EM活用事例は次のようなものでした。

- お江戸「日本橋」で河川浄化「蘇れ日本橋川」

名橋「日本橋」保存会事務局 長永森昭紀氏

日本橋川浄化については、NPO緑の会もお手伝いをしておりますが、効果が現れ始めているところです。日本橋川浄化に至る経緯や小魚が増えている様子などが報告されています。

- 環境クリーンな花のまちづくり

埼玉県戸田市環境クリーン

室長 大山正治氏
同副主幹 吉田義枝氏
昨年 11月に開催された「EMサミット in 戸田」でもおなじみの戸田市は「環境クリーシな花のまちづくり」運動を展開しています。

なかでも「フェルトガーデン戸田（古着リサイクルのフェルトとEM生ゴミ肥料を活用した栽培システム）」の手法を用いて屋上緑化や花壇づくりに取り組んでいる報告などがありました。

三重県四日市市農水振興課 伊藤 亨氏
公害を克服し、その防止技術の世界に発信するまち”として環境問題に取り組んでいます。

その一つとして、住民主体のまちづくり活動や教育現場の中にEMによる河川浄化の取り組みが行われているそうです。また、農業分野や畜産分野にもEMを活用し、安心・安全な食の提供や悪臭防止に役立てています。

●EMを活用した村づくり
北中城村長新垣邦男氏
ホテル「コスタビスタ」のある北中城村では、村の政策としてEMによる村づくりを推進しています。

●やんばるの水と静かな環境で健康に育つ美味しいポーク我那覇畜産
我那覇畜産では、薬剤を極力使用せずEM活性液とE

Mセラミックスを豚の飲み水に投与するなどEM技術を活用し、豚舎の内環境を整えています。また、豚の排泄物を利用してオガ粉堆肥「とんちゃん」も地元JAを通じて販売され、好評を得ています。

●うるま市における学校でのEM活用（中学生徒による研究発表）
うるま市立与勝中学校生徒2名が「EMで本当に鉄はさびにくくなるのか」をテーマに発表しました。



講演中の知念うるま市長

●EMも永遠なれ！うるま市におけるEMの活用（産業・環境・まちづくり）
知念恒男具志川市長（現うるま市長）が選挙公約として「EMによるまちづくり」を訴えて当選し、市は積極的にEMに取り組んでいます。

急遽明朝に、知念氏のご案内で現地見学することが決まったようです。お陰で予定になかった図書館の見学が実現しました。

◆うるま市立中央図書館見学
前夜の交流会で恒川理事長が親しく話しをしていたのが、知念氏で旧具志川市図書館長「現うるま市立中央図書館」でした。

世界的にも有名なこの図書館は、平成三年の開館当時から浄化槽にEM浄化法を取り入れていました。この仕組みは、現在では通常の合併浄化槽にEMを年間に4回、30リットルを投入するという単純なものです。

開館以来、汚泥のくみ取りが一度もなく、浄化された水は中水としてトイレや車、ジュウタンの清掃、花壇などで利用されています。

この水は知らない人が飲み水と間違えて飲んでしまいうほど、透明な水なのです。一般には飲み水として利用されてはいませんが、見学した我々はEM効果を知って



図書館の浄化槽

いますので、全員が実際に飲んでみました。そして何の違和感もありませんでした。中水の利用で、年間120万円予定していた水道料金は、約6万円となっています。

また、従来法では長時間曝気をする必要がありました。EM浄化法では、1日のうち間欠的に曝気を5回行い、合計2時間で充分なので、電気代の節約も大きいとのこと。現在にいたるまで汚泥の引き抜きは無く、抗酸化力をもった中水を利用することでサツシの錆が無くなり、ジュウタンの悪臭が無いなど水道料、電気量の節減も含めかなりの効果を生み出しているのです。

また、一見にしかず、EM普及の原点ともいえる有名な図書館のEM浄化槽を体感できたことは幸いでした。



念うるま市立中央図書館

◆観光やショッピングでも楽しみました
以上のように「EMサミット in 沖縄」など数々の行事や見学、懇親会への参加を通してEM効果を改めて認識することができました。

また、主催者のご配慮で首里城や琉球村、美ら海水族館などの観光ができましたし、那覇市公設市場などでのショッピング、また楽しい食事会などを通じてメンバー間の絆を深めることができました。これは大変有意義でした。



首里城でのメンバー

編集後記
今回のツアーは、緑の会姉妹会の次のメンバー10名でした。とね緑の会（植田美枝子）、阿見緑の会（石川泰子、黒田文子）、いなしき緑の会（吉田昌枝）、ひたち緑の会（佐川淑子、月沢弥生）、NPO緑の会（恒川敏江、恒川芳克、若林正子、福留一徳）、お互いに交流を深める事ができましたので、今後お互いの活動に生かされていくものと思います。

KF